

(仮称) 大麻町総合防災センター整備事業 実施設計施工者選定

公募型プロポーザル評価結果報告書

令和7年12月5日

(仮称) 大麻町総合防災センター整備事業設計・施工者選定委員会

委員会役職	氏名	所属団体等名称及び役職
委員長	小田切 康彦	徳島大学 総合科学部 准教授
副委員長	谷 重幸	鳴門市 副市長
委員	池添 純子	鳴門教育大学大学院 学校教育研究科 准教授
委員	佐藤 英人	国土交通省 四国地方整備局 徳島河川国道事務所 副所長
委員	久保 敬徳	徳島県 県土整備部 営繕課 副課長
委員	大林 清	鳴門市 危機管理監
委員	橘本 晋作	鳴門市 事業統括監兼企画総務部長

事務局 : 鳴門市 企画総務部 戦略企画課

目 次

1. 目 的・・・・・・・・・・・・・・・・	3
2. 設計施工者選定のプロセス・・・・・・・・	4
3. 委員会の審議・審査等の経過・・・・・・・・	5
4. 公募型プロポーザル 評価基準・・・・・・・・	5
5. プロポーザル参加者・・・・・・・・	6
6. 評価基準に基づく委員会の評価結果・・・・・・・・	7
7. 評価結果の順位・・・・・・・・	8
8. 決定した最優秀提案者・・・・・・・・	8
9. 最優秀提案者の提案見積価格（税込み）・・・・・・・・	8
10. 委員会の総評・・・・・・・・	9

1. 目 的

市西部に位置する大麻分署(1968年竣工)、板東連絡所(1968年竣工)、板東消防分団詰所(1972年竣工)は、それぞれ建設から半世紀以上が経過し、耐震性能の不足や施設・設備の老朽化、バリアフリー性能の確保などの課題を抱えており、早急な対応が求められております。

また、市では「鳴門市公共施設等総合管理計画」等に則り、「まちづくり」の観点に立った公共施設等全体の最適配置の実現を目指し、周辺・類似施設を巻き込んだ新たな施設配置を検討するなど、施設の多機能化や複合化、再配置を推進しております。

さらに、板東地区は「鳴門市都市計画マスタープラン」において、歴史や文化を活かした観光振興を図るエリアであるとともに、水害の危険性が低い地域特性であることから、本市の西の防災拠点として機能強化を図るエリアとして位置づけられております。

こうしたことから、市では、令和6年2月に(仮称)大麻町総合防災センター(以下「防災センター」という。)建設の基本計画を策定し、防災センター建設事業(以下、「本事業」という。)に係る基本方針や導入機能、実施手法等の基本的な事項を明らかにしました。防災センターは、地域住民が安心して暮らせる防災機能等を有するとともに、大麻分署や板東連絡所機能など複合化した行政サービスを提供することにとどまらず、豊かな自然環境や地域の歴史、伝統、文化を生かした魅力あるまちづくりに資する施設となるよう、日常時から地域住民等に親しまれ、様々な人が交流することができる施設を目指します。その具現化においては、「フェーズフリー」の概念を取り入れ、防災機能以外の部分についても、地域を豊かにする日常時の施設が、非常時にも市民の命や生活の質を守ることに役立つ施設整備とします。

また、防災センター建設の具体的な方向性を示すものとして、以下のとおり5つの基本方針を設定しました。

- (1) 日常時も非常時にも、連続的に価値を有した施設
- (2) 地域に親しまれ、地域活力に満ちた施設
- (3) 防災拠点にふさわしい、安全安心な施設
- (4) 機能性・経済性・柔軟性を有した施設
- (5) 環境にやさしく、周辺環境と調和した施設

これらの方向性を具現化するものとして、基本的な平面計画・構造計画・設備計画等をまとめた「防災センター基本設計」が令和7年5月に完了し、今後、コスト・スケジュールを管理しながら、求められる整備を着実に具現化できる設計施工者の選定を行っていくこととしています。

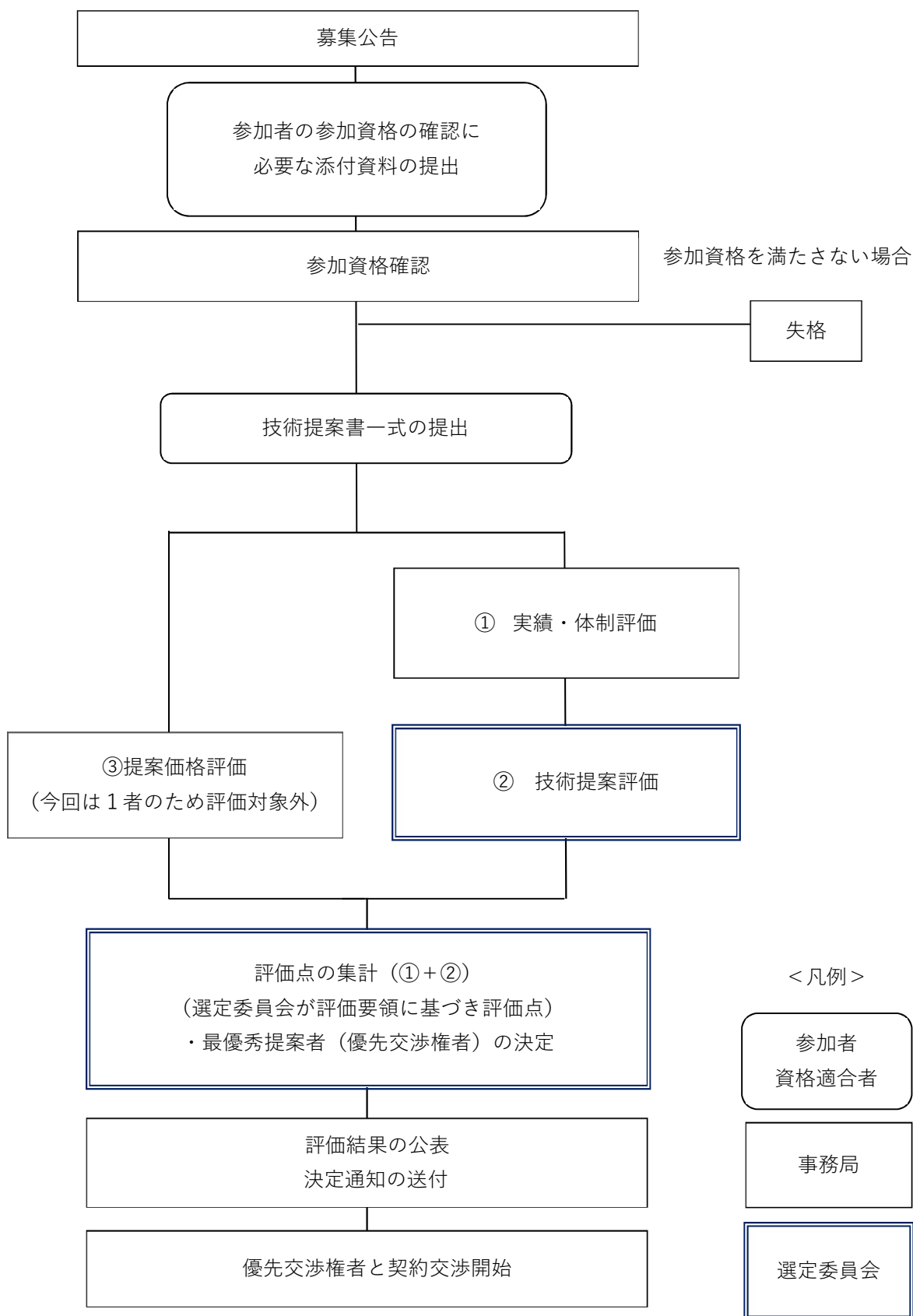
また、本事業には下記の特性があります。

- ① 交付税措置のある有利な地方債(緊急防災・減災事業債)を最大限活用するため、その時限措置である令和7年度内に本事業に着手することが必須である。
- ② 事業手法は、設計に市の意向を十分に反映することができ、コスト縮減や工期短縮の可能性のある「実施設計・施工一括発注方式」を採用する。
- ③ 地域経済、地元施工者の技術力向上に貢献・寄与することを目指す事業である。

このような視点を踏まえ、市では、本事業の実実施設計・施工の着手にあたり、基本設計等に示された要件を十分に理解し、市民の期待に応えられる、高度な専門知識と技術力を備えた意欲と熱意の溢れる最適な設計施工者を選定するため、その提案内容のほか、実績・能力・適性・価格等を総合的に評価するプロポーザルを実施しました。

本プロポーザルにおける最優秀提案者は、学識経験者等で構成する(仮称)大麻町総合防災センター整備事業設計・施工者選定委員会(以下「委員会」という。)において、評価基準に基づき評価を行い、最優秀提案者(優先交渉権者)を決定しました。

2. 設計施工者選定のプロセス



3. 委員会の審議・審査等の経過

本事業の最優秀提案者を決定するために、次のとおり委員会を開催した。

開催日	審議事項
令和7年11月10日	議事 (1) 事務局より事業概要説明 (2) 評価項目及び評価基準について (3) プレゼンテーション等 (4) 採点・最優秀提案者の決定 (5) 公表内容の確認

4. 公募型プロポーザル 評価基準

委員会により次の項目を評価しました。

(1) 実績・体制評価（配点10点×委員7人）

参加者及び本業務予定技術者等の実績を評価するため、実績・体制評価に係る提案書を別表の基準により事務局が定量評価を行い、その結果を委員会に報告しました。

(2) 技術提案評価（配点70点×委員7人）

本業務に対する参加者の提案内容を評価するため、技術提案書の内容を別表の基準により委員会の各委員が評価しました。

(3) 提案価格評価（配点20点×委員7人）

1者のみの提案だったため、評価の対象外とすることを委員会に報告しました。

(4) 最優秀提案者の選定

実績・体制評価、技術提案評価の合計評価点が、満点（560点）の6割（336点）以上の基準を満たしたことから最優秀提案者となりました。

(5) 評価項目、配点等

各評価の評価項目や評価の視点、配点については、別表のとおりです。

また、技術提案評価において、各委員は提案された内容を踏まえた上で、評価項目ごとの配点に以下の係数を乗じた点数をもって評価を行いました。

評価	係数
A：非常に優れた提案である	1.0
B：優れた提案である	0.8
C：標準的な提案である	0.6
D：やや劣っている提案である	0.4
E：劣っている提案である	0.2
F：評価できる記載がない	0.0

■評価基準 別表

審査項目	領域	提案テーマ	求める提案内容	配点	
実績 体制 評価	企業 実績	企業の設計実績	① 設計業務の類似実績：1件	2点	10 点
		企業の施工実績	② 施工業務の類似実績：2件	4点	
	配置技 術者の 実績	設計管理技術者の類似実績	① 設計業務の類似実績（主任技術者以上の立場）：1件	2点	
		監理技術者の類似実績	② 施工業務の類似実績（主任技術者以上の立場）：1件	2点	
技術 提案 評価	A 業務 全般	ア)業務実施方針と体制 本事業特性に相応しい業務 実施方針と、設計・施工・アフ ターフォローの総合体制	① 本事業の目的や特性に相応しい業務実施方針の提案	5点	30 点
			② 事業進捗に合わせた会議体の設定や、リアルタイムの情報共有の仕組みなど、関係者の合 意形成に寄与する取組等の提案		
		イ)工程管理手法 本事業を期日までに確実に完 成させるための工程管理手法	① 設計・申請～資材発注～各工事の関連とクリティカルパスを明記した全体工程	5点	
			② 資材納期や労務不足による工程遅延を防止するための有効策		
		ウ)品質管理手法 本事業の目標品質を確実に 達成するための各段階ごとの 品質管理手法	① 発注者の要求を的確に設計に反映し、そのプロセスも含め管理する手法	10点	
			② 発注者の要求を的確に施工に反映し、そのプロセスも含め管理する手法		
		エ)コスト管理手法 本事業期間を通じて、提案見 積額を超過しないためのコスト 管理手法	① 契約価格の中で設計・施工を進める有効な手法	10点	
			② 激しい市況変動下での有効なコスト抑制手法		
	B 設計 施工 業務	ア)防災・安全性等、市民交 流・賑わいについて	① 日常時も非常時にも、連続的に価値を有した施設とするための具体的な提案	20点	40 点
			② 地域に親しまれ、地域活力に満ちた施設とするための具体的な提案		
			③ 防災拠点にふさわしい、安全安心な施設とするための具体的な提案		
		イ)環境・設備・維持管理等に ついて	① 機能性・経済性・柔軟性を有した施設とするための具体的な提案	20点	
			② 環境にやさしく、周辺環境と調和した施設とするための具体的な提案		
提案価格 評価		提案価格見積書	提案価格審査の評価点は、以下の計算式により採点する。（小数点3位は切り捨て） 評価点＝（配点）×（最低提案価格／当該提案価格） ※著しく妥当性を欠くもの（本業務に係る提案上限価格の86%を下回る場合）は、本項目を 0点とする。	20点	20 点
				合計	100 点

5. プロポーザル参加者

受付番号	参加者名	構成
1	福井組・井上建設・歩デザイン特定建設工事共同企業体	J V

6. 評価基準に基づく委員会の評価結果

1) 実績・体制評価（配点10点×委員7人＝70点）

分類	評価項目	評価の視点	配点	評価点
				70
企業実績	企業の設計実績	設計業務の類似実績：1件 過去15年以内に日本国内で業務を完了した、延床面積1,000㎡以上の公共建築物＊）の実設計業務を元請（JVの場合は代表構成員・構成員のいずれも可とする。）として履行した実績	14	14
	企業の施工実績	施工業務の類似実績：2件 過去15年以内に完成・引き渡しを完了した、延床面積1,000㎡以上の公共建築物＊）の施工を元請（JVの場合は代表構成員・構成員のいずれも可とする。）として履行した実績	14	7
			14	14
配置技術者の実績	設計管理技術者の類似実績	設計業務の類似実績（主任技術者以上の立場）：1件	14	14
	監理技術者の類似実績	施工業務の類似実績（主任技術者以上の立場）：1件	14	0
合 計			70	49

2) 技術提案評価（配点70点×委員7人＝490点）

分類	評価項目	評価の視点	配点	評価点
				490
A 業務全般	ア 業務実施方針と体制に関する提案	① 本事業の目的や特性に相応しい業務実施方針の提案 ② 事業進捗に合わせた会議体の設定や、リアルタイムの情報共有の仕組みなど、関係者の合意形成に寄与する取組等の提案	35	26
	イ 工程管理手法に関する提案	① 設計・申請～資材発注～各工事の関連とクリティカルパスを明記した全体工程 ② 資材納期や労務不足による工程遅延を防止するための有効策	35	26
	ウ 品質管理手法に関する提案	① 発注者の要求を的確に設計に反映し、そのプロセスも含め管理する手法 ② 発注者の要求を的確に施工に反映し、そのプロセスも含め管理する手法	70	50
	エ コスト管理手法に関する提案	① 契約価格の中で設計・施工を進める有効な手法 ② 激しい市況変動下での有効なコスト抑制手法	70	52
B 設計施工業務	ア 防災・安全性等、市民交流・賑わいに関する提案	① 日常時も非常時にも、連続的に価値を有した施設とするための具体的な提案 ② 地域に親しまれ、地域活力に満ちた施設とするための具体的な提案 ③ 防災拠点にふさわしい、安全安心な施設とするための具体的な提案	140	112
	イ 環境・設備・維持管理等に関する提案	① 機能性・経済性・柔軟性を有した施設とするための具体的な提案 ② 環境にやさしく、周辺環境と調和した施設とするための具体的な提案	140	100
合 計			490	366

3) 提案価格評価（配点20点×委員7人＝140点）

評価項目	評価方法	配点	評価点
			140
提案価格見積書に記載された金額（提案価格）	<p>提案価格審査の評価点は、以下の計算式により採点する。 （小数点3位は切り捨て） $\text{評価点} = (\text{配点}) \times (\text{最低提案価格} / \text{当該提案価格})$</p> <p>※著しく妥当性を欠くもの（本業務に係る提案上限価格の86%を下回る場合）は、本項目を0点とする。</p>	140	※提案価格評価（140点満点）は参加者1者のため評価に含めません。
合 計		140	

7. 評価結果の順位

順位	受付番号	参加者名	実績・体制評価	技術提案評価	合計点
			70点満点	490点満点	560点満点
1	1	福井組・井上建設・歩デザイン 特定建設工事共同企業体	49	366	415

※提案価格評価（140点満点）は参加者1者のため評価に含めません。

8. 決定した最優秀提案者

最優秀提案者
福井組・井上建設・歩デザイン特定建設工事共同企業体

9. 最優秀提案者の提案見積価格（税込み）

提案見積金額：1,390,180,000円

（うち取引に係る消費税及び地方消費税の額 126,380,000円）

10. 委員会の総評

本事業は、大麻分署、板東連絡所、板東消防分団詰所の耐震性能の不足や施設・設備の老朽化などの課題解決とともに、大麻町のまちづくりの重要な拠点となる施設として多くの期待が寄せられています。

本委員会では、本事業が基本設計で示す基本方針・コンセプトや利用者目線を踏まえながら、昨今の建設物価の急激な高騰の中で限られた工期内で実施設計と工事に取り組む必要があり、高い技術力とマネジメント能力が必要になるといった認識のもと、応募は1者のみでしたが、より一層慎重かつ厳正な審査を心掛け、品質やコスト管理、工程管理の両立が図られているか、また基本コンセプトを満たしながら利用者にとって最適な施設となっているか、円滑な災害対応が可能か、といった点などを重視しながら、評価を行いました。

提案内容については、業務実施方針、工程、品質、コストなどの多角的な視点で検討されており、デザインビルドの特徴を踏まえた設計チームと施工チームの明確な役割・体制づくりに加え、クリティカルパスを重視した工程管理、定期的な全体会議によるマネジメントの強化、設計審査による品質やコスト管理の徹底など、各種リスクに対して適切に対処しうる計画となっている点が評価されました。

また、設計・施工面では、消防棟とコミュニティ棟の2棟に分け、渡り廊下で連結する提案が行われました。この提案により、平常時は主要な機能が1階に集約化されることで利用者の利便性を高めつつ、多世代が集まることができる空間を形成するとともに、明確なゾーニングが分かれることで非常時には消防棟が災害対策本部の代替施設として、またコミュニティ棟を緊急避難場所として活用できることにより、迅速な災害対応が可能となります。

さらに、コミュニティ棟を木造平屋とすることで、激しい市況変動下での資材価格の変動にも柔軟に対応でき、コストを抑えながら親しみやすく温かみを感じられる施設とする工夫がみられました。

本委員会ではこうした特徴を評価する一方で、本プロポーザルが「提案内容」を評価して「事業者」を選定するものであることや、本事業が設計段階から施設の管理運営の視点を反映する手法を重要視していることなどを踏まえ、平面計画・配置計画・階高などの精査・検討について、今後、選定予定の指定管理候補者をはじめとする関係者と連携しながら、より実効性の高い計画となるよう、引き続き検討を重ね、地域にとって最適な施設となることを期待しているところです。

最後に、本委員会として、本プロポーザルのすべての関係者に深く感謝申し上げます。

(仮称) 大麻町総合防災センター整備事業設計・施工者選定委員会

委員長 小田切 康彦